

ヒマワリで福島支援

豊田中生が栽培

9月に種採集、返送予定



生徒が丹精込めて育てたヒマワリ

＝磐田市立豊田中

東日本大震災で被災した福島県の復興支援企画「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加し、ヒマワリの種の栽培に取り組んでいる。種から採った油を現地で活用する計画で、生徒らは「福島の人とながり、復興を支えた」と意気込む。事業は太陽に向かって花を咲かせるヒマワリを復興のシンボルにしようと、同県のNPOが震災直後の201

全国の個人、団体に種を送り栽培に協力してもらい、返送された種を再び同県内の学校などで育てる。油はバスのエネルギーとして利用されるという。

同校は今年初めてプロジェクトに参加し、種千粒を購入。生徒会の募金に協力した生徒が種を受け取り、家庭で栽培している。残りの約300粒は校内の花壇やベランダのプランターに植え、園芸委員会らを中心に草取りや水やりなど丹精込めて世話をしている。7月下旬には計約20平方メートルの花壇に満開のヒマワリが広がった。

9月ごろに種を採集し、返送予定。3年の生徒会長岡涼雅さん(15)は「福島の人と花を通じてつながり、互いに笑顔になればうれしい」、2年の小永井花さん(14)は「遠く離れた県だけど、復興を支える人がいることを」。

を福島の人たちに分かってほしい」と期待す

(磐田支局・池谷遥子)